

# ふつつもとずほうるいほうだい 富津元洲堡壘砲台



桜の名所、真っ白な展望塔がそびえ立つ緑の島、中の島の由来とは...

富津公園一帯は、明治14年、時の明治政府により砲台と海堡が築かれました。中の島は元洲砲台として同年8月に竣工し、約3年の歳月をかけて築造されたものです。

築造の方法は、幅20～30メートルの外濠を掘り、海水を引き入れ砲台の整備とし、濠の砂を盛り、崩れを防ぐため外面を富津市二間塚の土で覆ったといわれ、現在もその痕跡を留めています。

明治28年には東京湾要塞指令部が発足し、守備隊がおかれました。元洲砲台には歩兵中隊446名が守備につきましたが、幸いに富津の砲台は一弾も発射されることなく、日露戦争には一部攻城砲として、旅順に送られたものもありました。大正4年9月に旧式として除籍され、陸軍技術本部の大砲試射場となり、後に24センチ列車砲も設けられ、その試射もありました。

軍の占拠は終戦まで続きましたが、昭和26年に県立公園に指定され、昭和28年に鉄筋コンクリート三層造最上階高さ11メートルの中の島展望塔ならびに中の島周辺に通称行幸橋が築造されました。

その後、老朽により中の島展望塔、行幸橋が撤去されましたが、昭和55年に鉄筋コンクリート三階建、高さ9.1メートルの展望塔が築造され現在にいたっております。

昭和29年頃 中の島から北側海岸方面



当時、園内には100人前後が住んでいた

昭和37年頃 中の島から南側海岸方面



濠には木橋、左端に汐見荘、その先に観光ホテル



だんやくこ  
中の島 弾薬庫



かんてきじょ  
松林 監視所

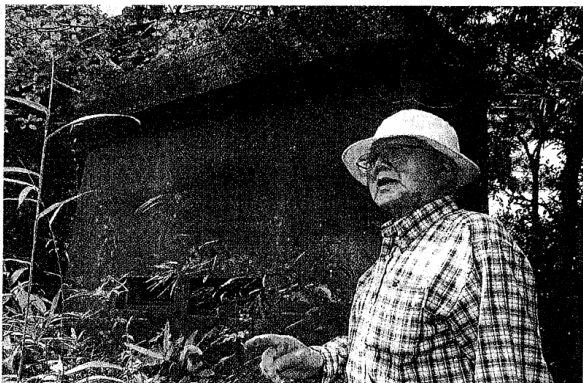


しゃにゆうこう  
松林 射入窖

# 兵器実験の“秘密施設”

## 遺構群保存で教訓に

7月17日(富津市の富津岬)



### 富津試験場

富津岬

密を扱う秘密研究所当時、周囲は有刺鉄線で囲まれ、「立ち入りまたは撮影機写を禁ず」と警告する立て札があり、実態はペールに包まれていた。

富津尋常高等小学校を卒業後、1941(昭和16)年4月から45年5月まで、事務担当の「工員」として働いた富津市川名の森良雄さん(89)は、当時を知る数少ない地元住民の一人だ。

森さんによると、試験場には富津や君津から約120人が勤務し、場内の清掃や修繕に従事。新兵器が

製作所を立ち上げ、漁網の巻き上げ機などに改造、父し量る。

父が「国や家族を守るために」働いた痕跡ともいえる遺構群は、風化が著しく、その存在を知る人は少なくなかった。富津さんは掘り起こして戦争の反省を生かしてほしいと願っている。

(当時の事を、何とか私に)

富津試験場 富津岬には明治時代、東京湾防備のため砲台が造られたが、航空機の発達などで1915年に役目を終え、陸軍技術本部の富津試験場に姿を変えた。小銃や機関砲の命中率、耐久性などを実験し、軍用銃で運ばれた「列車砲」の試射弾は、約50発の館山の布良沖まで送った。

手紙の使役として「富津岬」

### 107年前に「発射」記述

#### カノン砲の薬きょうか

##### ファンクラブに寄贈

富津第2海堡

富津市富津2丁目1番地の富津第2海堡(砲台)に、カノン砲の薬きょう(薬)が、ファンクラブに寄贈された。この薬きょうは、107年前の1908年に、富津第2海堡で試験射撃された際の遺物とされている。富津市は、この薬きょうを、富津市ファンクラブに寄贈し、保存管理している。富津市は、この薬きょうを、富津市ファンクラブに寄贈し、保存管理している。